

民主党は日本を亡ぼす

「普天間」の重大さがわかっていない

6 オバマが「問題児」サマーズ排除へ―経済チーム「不協和音」の主

14 英国で進む「政治主導」批判

■素人は引込みプロの官僚に任せろ

16 欧州協定「核兵器問題」―「統合軍結成」は夢のまま

18 WORLD ●情報カプセル

22 「アフリカ権益」を失ったフランス―旧植民地で凋落の途

24 旧ソ連諸国で米国が大ヘマ―総崩れとなった「色の革命」

28 中東は「大統領の世襲」が大流行

■エジプト・リビア・イエメン……

30 南アに過激な「黒人民族主義」―W杯後に「政治危機」へ

32 成長市場インドを脅かす「テロ集団」

■共産党毛派とイスラム過激派が連携

34 ユドヨノ政権を揺さぶる「テロ新組織」―アチ州中心に跋扈

36 短期連載① 「幻想の経済大国」中国

―「成長指標」は創られている

鳩山は、米国からとうとう「バカ」呼ばわりされるに至った。高価な核の傘の恩恵を忘れ、中国の脅威から目を背ける様に、米国の我儘は限界に達した。日本は同盟国なのか、との深刻な疑問にどう答えるつもりか。(6頁)

REUTERS/AFL0



検察審査会の議決で、「小沢支配」の軛から逃れる条件は整った。だが、肝心の人事権者も普天間で破滅の淵に佇む。死に体のツートップが進退を決めきれぬ醜悪の中、水面下で「ポスト鳩山」を巡る思惑が蠢く。(48頁)

60 オバマ「金融規制改革」の衝撃

■ウォール街への「徹底討伐」が始まる

62 石油消費は「減退」しない―「バレル百ドル」に向かうこれだけの根拠

64 米「トヨタ制裁」本番はこれから

■何もわかっていない章男社長

66 連載「罪深きはこの官僚 柳瀬唯夫 経済産業省産業再生課長

67 連載「クローズアップ」外国人トップの起用続ける 藤本勝司(日本板硝子社長)

68 三井住友海上「巨額損失」の真相―新生メガ損保の船出は前途多難

70 現代自動車を狙う「トヨタ城下町」―ハイブリッド技術を「根」こぎに

72 「脱税体質」改めぬ日本―B M

■国税・証券監視委が追いつめるその「悪辣さ」

74 経済 ●情報カプセル

78 連載「企業研究」富士フイルム―華麗なる業態転換の正念場

82 みずほはオリコを救えるか―負債総額は四兆千億円にも

84 「地盤沈下」止まらぬ日本の証券市場―アジアの地方取引所に成り下がる

86 孫と原口が弄ぶ「NTT分割論」―あまりの拙速さに有識者も失望



消えゆくライバルを横目に、電子産業へ巧みな転進。その新境地が頭打ちと見るや、今度は「総合医療品会社」を目指す変わり身の早さ。「化学業界のトップはウチ」と自負するが、「第2の創業」は成功するのか。(78頁)



薬もワクチンも最新のものが使えない日本。「医療品後進国」に転落した元凶は、薬の許認可権限を一手に握る素人役人だ。省利省益のために薬事行政を差配する彼らの頭に、国民の健康という概念は微塵もない。(100頁)

98 社会・文化 ●情報カプセル

100 日本のサンクチュアリ ●シリーズ 428

厚労省「薬系技官」

■薬害はまた起る

104 「電子書籍元年」に呑気な出版業界―座して死を待つのか

106 弁護士業界が群がる第二の金脈

■潜在市場「八兆円の未払い残業代」

108 検察は「政権中枢捜査」をやるか―大物次席検事登板の真相

110 有人宇宙開発という「壮大な無駄」

■得られるものはなにもない

112 世界のセレブ向けリゾートの「可能性」―「観光立国」への起爆剤にも

88 皇室の風―岩井亮己

90 不運の名選手たち―中村計

92 むかし女ありけり―福本邦雄

94 本に遇う―河谷史夫

96 還りのいのち 還りの医療―米沢慧

114 マスコミ業界ばなし

選択

2010.5月号 ●目次

連載

- 10 国際・国内人情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 追想 バテレンの世紀―渡辺京二
- 42 あるコスモポリタンの憂国―紺野大介
- 51 西風―八木亜夫
- 59 交差点―読者の声・編集者の声

- 88 皇室の風―岩井亮己
- 90 不運の名選手たち―中村計
- 92 むかし女ありけり―福本邦雄
- 94 本に遇う―河谷史夫
- 96 還りのいのち 還りの医療―米沢慧
- 114 マスコミ業界ばなし

表紙の図版は「レオナルド・ダ・ヴィンチ素描集(英国王室ウィンザー城所蔵)」。 (朝倉書店刊) から転載しています。

●校正/聚珍社 ●レイアウト/スタジオケッス+瀬戸章順 ●写真提供/PANA 共同通信社 朝日新聞社 読売新聞社など